

避難は命を守る行動です。

地震・津波が起きたときに、とるべき行動

- 1 地震発生！** 地震の揺れから身を守る
 - 「頭を保護する」「大きな家具から離れる」など、落ち着いて自分の身を守る。
 - ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。
- 2 安全の確認 避難の準備・開始** 沿岸部では津波に備えて、避難開始
 - 火の元を確認、初期消火する。電気のブレーカーを切る・ガスの元栓を閉める。
※復旧時の火災を防ぐため
 - 足をケガしないように靴をはく。
 - 揺れがおさまったら、津波に備えて、ただちに避難する。
ただし、海岸付近にいる場合は、揺れと同時に避難する。
 - 原則、徒歩で避難する。徒歩での避難が困難な場合は車で避難する。
 - 非常持ち出し品を手元に用意する。
- 3 情報の入手** 情報の収集は安全な場所で行う
 - 安全な場所に移動してから、正確な情報を確認する。
 - 間違った情報や、うわさ、デマなどに惑わされないように注意する。
- 4 避難施設へ移動** 一時的に避難した場所から、避難所などへ移動
 - 安全の確認ができたなら、一時避難した場所から、避難施設などに移動する。

津波に関する警報と注意報

津波から身を守るためには、少しでも高い場所に避難することが大切です。
指定緊急避難場所や津波の危険性がない高台へ避難しましょう。

	予想される津波の高さ	とるべき行動
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	海岸や河川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。
	10m (5m<高さ≤10m)	津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。
津波警報	5m (3m<高さ≤5m)	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！
	3m (1m<高さ≤3m)	
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで、海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。 状況を踏まえ自主的に避難しましょう！

まずは身の安全を守り、避難するときは地域や近所の人と協力（共助）して助け合いましょう。

台風・風水害による被害が想定されるときに、とるべき行動

避難場所や安全な場所へ早めの避難

気象情報や市からの避難情報に注意し、早めに避難することが重要です。
すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている場合は、避難場所への移動（水平避難）だけでなく、自宅の2階などの高い場所への避難（垂直避難）を行い、救助を待つという判断も必要です。



土砂災害から身を守るポイント

①住んでいる場所が「土砂災害（特別）警戒区域」の場合、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意してください。
②避難情報の発令や危険を感じたら早めに避難してください。

緊急避難場所等への移動がどうしても困難な場合は…
家の2階以上へ（がけと反対側）
それも困難なら
がけから離れた部屋へ

避難するタイミング

ハザードマップの確認や情報の入手はこちら

警戒レベル1 (白色)	警戒レベル2 (黄色)	警戒レベル3 (赤色)	警戒レベル4 (紫色)	警戒レベル5 (黒色)
<p>備蓄・避難グッズの準備</p> <p>早期注意警報</p>	<p>避難行動避難経路の確認</p> <p>注意報</p>	<p>高齢者・障害者・乳幼児等は支援者とともに避難</p> <p>危険な場所から高齢者等は避難</p> <p>高齢者等避難</p>	<p>速やかに避難！</p> <p>危険な場所から全員避難</p> <p>避難指示</p>	<p>命を守る最善の行動を！</p> <p>すでに災害が発生直ちに安全確保</p> <p>緊急安全確保</p>

※時間を要する方

京丹後市ハザードマップ (浸水・土砂災害、地震・津波)

あなたの街の防災情報 (気象庁の防災情報等)

きょうと危機管理 WEB (京都府の防災情報等)